

令和7年度 施設自己評価



園名

たかさごスクール南流山

評価基準

A(大変優れている): 施設全体で高い意識を持って取り組み、素晴らしい成果や独自の工夫が見られる状態
B(適切である): 計画通りにしっかりと実施されており、子どもたちが安心して過ごせる安定した状態
C(改善が必要): 取り組んではいるものの、さらにより良くしていくための課題や見直す点がある状態
D(緊急な対応が必要): 基準に達しておらず、子どもたちのためにより良い環境へ向けた緊急な対応や改善が必要な状態

評価日

令和8年3月31日

No	項目	内容	評価 (A/B/C/D)	意見・改善案
1	園の基本姿勢	全体的な計画は園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている。	B	法人の理念のもと、お子様達の発達過程を踏まえた全体的な計画をもとに、教育、保育を行っている。職員会議等でお子様やクラスの実態について職員間で共有し話し合いをしている。今後も継続して行い、お子様に合わせた計画のもと、保育ができるようにしていく。
2		全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を、全ての保育者等が持っている。	B	
3		指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員の共通認識のもとに作成している。	B	
4		子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態などについて職員間で話し合う機会を設けている。	B	
5	子どもの権利の尊重	子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している。	B	園内研修で児童憲章や倫理綱領等の読み合わせを行い、職員全体がお子様の権利について理解を深めている。お子様の権利のもと、一人ひとりに合わせた声掛けや配慮を行っている。不適切な保育がないよう意識を高く持ち、安心、安全な保育を行えるようにしていく。
6		個人情報保護について職員全体で確認し、十分配慮している。	A	
7		保育者は、自身が子どもにとって重要な環境であることを十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている。	A	
8		子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように援助している(3歳児以上)。	A	
9		保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉づかいをしていない。	B	
10	愛着形成	子どもの成育歴や心身の発達等を考慮して、主に担当する保育者を決めている(0・1・2歳児)。	A	一人ひとりの気持ちに寄り添い、信頼関係を築けるような保育を行っている。家庭との連携をとり共有しながら、お子様の生活リズムを考慮した細やかな対応を心がけていく。
11		保育者は一人ひとりの思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている。	A	
12		子ども一人ひとりの生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスをとっている。	A	
13	環境	各保育室は整理整頓され、雑然としていない。	B	施設内外の安全点検を行い、安全な環境づくりに努めている。保育室内の環境についても、清潔な環境を継続していく。お子様の発達に考慮した玩具や環境設定を行い、お子様たちが自ら考えて工夫し、主体的に遊べるようにしていく。
14		各保育室には、一人ひとりの成長発達を考慮した遊びを準備している。	B	
15		施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている。	A	
16	健康・安全	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実施している。	B	遊具点検や午睡時のチェック、アレルギー対応などマニュアルに沿って行っている。また園内研修の議題とし、マニュアルの内容を読み合わせている。食育についても食育計画表をもとに進めている。工夫した食育を今後も行っていく。感染症については、保健だよりでお知らせしている。感染症流行時には、連絡帳のおたより機能を用いて、全体に配信することで病院受診に繋がられているので、継続して行っていく。
17		定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記録している。	A	
18		子どもが睡眠している時は必ず保育者が保育室にいる。	A	
19		保健(衛生管理・感染症対策等)に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	B	
20		アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	B	
21		家庭や地域との連携を図りながら子どもの健康増進に取り組んでいる。	B	
22		乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに評価・改善に取り組んでいる。	B	
23	教育・保育計画	全体的な計画(教育課程やその他の計画を含む)は、園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている(職員の参画のもとに作成している)。	B	保育方針や保育目標について職員会議で共有している。長期欠席のお子様の状況把握のため、保護者のかたに電話連絡している。必要な関係機関にもつなげられるようにする。
24		一人ひとりの子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態について職員間で定期的に話し合う機会を設けている。	B	
25		長期欠席の子どもの状況把握をしている。	A	
26	教育・保育施設ならびに保育者の質の向上	園長は、地域の状況を把握し、目指す教育・保育の方針を理解し職員に伝えている。	B	保育スキルの向上や、保育者としての資質向上のために研修に参加し、保育に生かせるよう努めている。保護者アンケートも、ご意見に対して改善できるよう努めている。今後も園全体として、現在の状況や環境に合わせた保育実践を行っていく。
27		幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を十分に理解し、向上心を持って教育・保育に取り組んでいる。	B	
28		社会情勢や環境の変化について常に関心を持ち、時代に適した教育・保育実践のための自己研鑽に努めている。	B	
29		教育・保育実践を互いに見合う等、学び合いの基盤ができている。	B	
30		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている。	A	
31		保育者等の自己評価結果などに基づき施設長と職員での話し合いを実施している。	B	
32	幼保小連携	児童票・児童要録・幼保小連携計画などを作成している。	A	就学に向けて小学校引継ぎ会への参加、要録の作成、送付を行い、小学校との細かな情報共有を行っている。就学を見据えた活動を取り入れ、より滑らかな接続を意識した支援を行っていく。今後も必要な関係機関との連携を図りながら、お子様の姿に合った保育内容の工夫や配慮を行っていく。
33		小学校進学するにあたっては小学校へ児童要録を送付、連絡会議等にも出席し、小学校との情報共有を図る。	A	
34		0・1歳児からの教育・保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している。	B	
35	特別支援	記録を基に、どのような場面で子どもが困っているのかを検討し、必要に応じて専門機関(地域の保健センター、臨床心理士等)の助言を受けている。	B	
36		子どもの様子で気になることは関係機関に報告している。	B	
37	保護者、家庭及び地域と連携した子育て支援	地域で行われている子育て支援施策を理解し、必要とする家庭と関係機関につなげ、子育て支援事業の情報を積極的に発信している。	B	保護者の方とのコミュニケーションを大切にお子様の現在の発達段階や、今後の目標について伝え、共有している。保護者の方のニーズに気付き、適切な内容を伝えられるようにしていく。また、保護者アンケートや行事アンケートの結果から改善できるように努め、保護者の方の気持ちに寄り添った対応を行っている。
38		子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている。	A	
39		子どもと保護者のおかれた状況を受け止め、保護者とのより良い関係を築き、良好に保つための努力をしている。	A	
40		第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている。	A	
41		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている(アンケート・行事等)。	A	
42	健康・安全(事故防止)	安全計画(児童の安全を確保するための計画)を策定し、見直し・周知・訓練を含めて運用している。	B	安全計画の作成やヒヤリハットの作成、分析から事故防止に努めている。安全計画については、職員への周知および訓練を実施しているが、日常の保育のなかでより生かせるよう継続した確認を行っていく。自己評価や保護者の方からの意見を園運営の改善に生かすとともに、防災・危機管理体制についても定期的な確認や訓練を行い、安全で安心できる保育環境の維持に努めていく。
43		事故・ヒヤリハットを分析し、再発防止策を具体化して改善の進捗を確認している。	B	
44	苦情解決・個人情報保護	苦情解決体制(受付・対応・記録・再発防止)を整備し、保護者へ周知して適切に運用している。	B	
45	第三者評価・自己評価の活用	自己評価結果を踏まえた改善計画を作成し、結果の公表(または保護者への説明)を行っている。	B	
46	防災・危機管理	災害時・感染症流行時等の事業継続(BCP)や連絡体制を整備し、定期的に点検している。	B	
考察		今年度の自己評価を通して、高砂福祉会の理念に基づいた「子ども一人ひとりに寄り添う保育」が園全体で概ね実践出来ていることを確認した。特に保護者の方との信頼関係の構築については良好な関係が築けているように感じる。一方で職員間の学び合いや専門スキルの向上については、まだ伸びしろがあると考えている。職員間の学びやスキル向上のために、研修や事例共有を通して専門性を高め、園全体として保育の質の向上に取り組んでいく。日々の保育を振り返る機会や情報共有を大切にしながら、職員同士が互いに学び合い成長できる環境づくりを進めていく。		